

TAKE FREE



# LOOK

A-LOOK YORII

№003

寄居を見て、歩く まちなか情報紙

あっLOOKは、株式会社まちづくり寄居が発行するまちなか情報紙です。寄居町のさまざまな情報を皆さんにお届けします。寄居を歩き、町を見て、皆さんのお気に入りを見つけてください。

CONTENTS

P2 寄居の桜、満開。  
P4 鉢形を歩く。  
P5 春のイベント

P6 寄居を食す。vol.3  
P7 ヨリイノヒトビト。



寄居の春を歩く。



# 寄居の桜、満開。

春の風物詩と言えば「桜」です。寄居町は“一年中桜に出会える町”として知られていますが、春になると一層さまざまな品種の桜が美しく咲き、まちなかを鮮やかに彩ります。今回はその様子を一目見ようと毎年多くの方が訪れる寄居町の「桜」を満喫できるスポットを紹介します。



推定樹齢150年を超える氏邦桜は例年3月下旬頃開花し、見頃を迎えると枝一杯に花が咲き誇り、見事な姿を見せてくれます。



ライトアップされた氏邦桜は、昼間とは違った姿を楽しめます。今年は3月21日から4月7日までライトアップされる予定です。※桜の開花状況で前後します。



## うしくにざくら 氏邦桜(エドヒガン) 迫力満点 町の天然記念物

氏邦桜は、寄居町を代表する桜です。樹高は18m、枝張りは東西23.5m、南北21.8mもあり、近くで見るとその大きさに驚きます。鉢形城主・北条氏邦の名にちなんで「氏邦桜」と名付けられ、町の桜のシンボルとして親しまれています。

## はちがたじょうこうえん 鉢形城公園 桜と歴史情緒あふれる古城跡

鉢形城公園は、鉢形城跡を整備した歴史公園で、園内には氏邦桜や鉢形城歴史館があり、桜とともに歴史を楽しめるスポットです。氏邦桜のほかにも、たくさんの桜が咲き乱れます。



鉢形城歴史館の入口付近の桜が来館者を出迎えます。大型休憩施設や、ベンチでくつろぎながら、思い思いの時間を楽しめます。



約24万㎡の広さを誇る鉢形城公園には、遊歩道に沿って桜並木があります。復元、整備された石積みの土塁や四脚などがあり、当時の様子に思いを馳せながら散策することができます。



調節池に沿って並ぶ桜のピンク色と、池の青がコントラストとなり、美しい景観を創り出します。



調節池周辺の桜並木は、道路へ桜が覆いかぶさるように張り出し、歩行者を優しく包み込みます。まるで桜の天井が広がるかのような並木道を散策することができます。

## みかやまりよくちこうえん 三ヶ山緑地公園 水辺に立つ美しい桜並木

三ヶ山緑地公園は、埼玉県環境整備センターの敷地内にある公園です。調節池の周辺は桜並木が続く人気のスポットです。







多くの少年・少女がサッカーボールを追いかけ  
ています。スポーツ目的だけでなく、自然あふれる  
絶景を見に、一度は訪れていただきたい場  
所です。



寄居用土グラウンドは大小さまざまな大会が  
開催され、サッカー関係者に親しまれてきた  
。桜の花は選手たちを見守るように咲いて  
います。

よりいようど  
**寄居用土グラウンド** 寄居サッカーの聖地

寄居用土グラウンドは、毎週末、サッカーをする少年・少  
女で賑わいます。グラウンド脇の道が桜並木となってお  
り、隣接する山の斜面には、ヤマザクラも咲き誇ります。



てらやま のうえん  
**寺山さくら農園** ようこうざくら  
陽光桜咲く桜の新名所

折原地区にある寺山さくら農園は、「一年中桜に出会える  
町よりい実行委員会」や地元の方を中心に整備された農園  
で、寄居町の新たな桜の名所として注目を集めています。



のどかな風景が広がる寺山さくら農園は、春  
になると、広大な敷地に陽光桜などの桜が咲  
き誇り、その様子はまるで桃源郷。あまたの桜  
が織りなすその景色は見る人を圧倒します。



園内に一歩足を踏み入ると、満開の桜が  
一面に広がります。園内では、鮮やかに咲く陽  
光桜を見ることができ、広い敷地を散策したり  
して、美しい景色を楽しむことができます。

第9回桜まつり 日時 4月2日(日)午前10時～  
問い合わせ 一年中桜に出会える町よりい実行委員会会長 大久保さん 090-6106-2849

**YORII  
HANA  
MAP**



かわら  
**かわせみ河原** 寄居を代表するアクティビティスポット



最後に紹介するのが、株式会社まちづくり寄居が管理運  
営を行っているかわせみ河原です。かわせみ河原は、バー  
ベキューやキャンプ、釣りなどアウトドアを通して自然を  
満喫でき、休日になると家族連れやグループで賑わいま  
す。かわせみ河原の桜は、埼玉県立川の博物館への道沿  
いに咲き、周辺の景色を桜色に彩り、訪れた方を楽しま  
せます。

かわせみ河原はアクティビティと桜がどちらも楽しみ、春  
を体感できるよければりなスポットです。



## 30 MINUTES WALK

春にピッタリ散策コース!



# 鉢形を歩く。

シックな駅舎から出発

## 鉢形駅



鉢形駅は2017年(平成27年)にリニューアルされ、「埼玉県立川の博物館」の水車小屋をイメージした現在の駅舎になりました。シンボルマークには、水車とかわせみのデザインが施され、地域に密着した駅舎になっています。

### YORII HACHIGATA MAP



桜が鮮やかに咲く寄居町。中でも鉢形地区は、桜の開花によってまちなみが一層美しく彩られます。表紙を飾る氏邦桜は東武東上線鉢形駅から歩いて約20分のところであり、道中にも見応えあるスポットが数多くあります。歴史と自然の魅力が詰まった春の散策コースを紹介します!

知る人ぞ知るスポット



徒歩  
10分

## 荒川河辺部



浄福寺の脇にある小道を川の方へ歩いていくと、荒川に沿って桜の並木道が目の前に現れます。春を感じながら爽やかな川沿いの道を歩きます。

歴史が詰まった桜の名所

## 鉢形城公園



鉢形城公園は、国指定史跡の鉢形城跡や鉢形城の歴史や地域の文化を学ぶことができる鉢形城歴史館を有する公園です。桜の見頃を迎えると、多くの方が訪れ、お花見や写真撮影などを楽めます。

明治の文豪の足跡



徒歩  
10分

## たやまかたい 田山花袋の漢詩碑



鉢形城跡の本曲輪付近には、田山花袋の漢詩碑があります。この漢詩は田山花袋が鉢形城跡を訪れた際に、詠んだものです。石碑には「襟帯山河好。雄視關八州。古城跡空在。一水尚東流」と武者小路実篤によって刻まれ、鉢形城跡から眺めた山の景色や荒川の美しさなど古の情景に思いを馳せ、川は当時と変わらずに流れている様子を歌っています。

寄居の春の代名詞

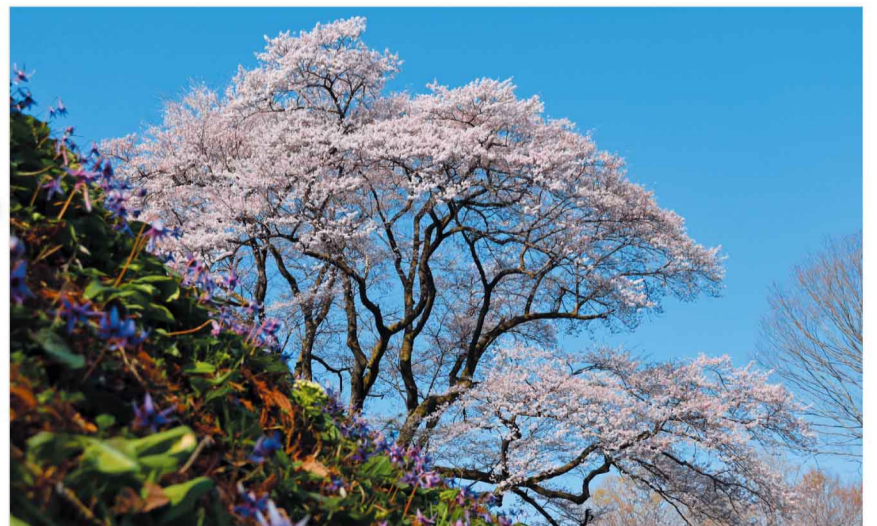


徒歩  
5分

## 氏邦桜



徒歩  
5分



寄居町の春を代表する氏邦桜。周辺には町の花・カタクリも咲いています。見事に咲く氏邦桜は多くの方を魅了します。



# 春のイベント

～Spring events in 2023～

## 金尾山つつじまつり

春の山肌を彩る、真紅のヤマツツジ



寄居町の西部は関東平野の始まりでもあり、秩父山地の始まりでもあります。町の西部に位置する金尾山(通称つつじ山)は、春になると約5,000株もの「ツツジ」が真っ赤に染まります。金尾山は鉢形城西方の守りであった支城要害山城跡で、さまざまな遺構や旧跡が残っていますが、明治時代以降、地元の方々の手によりツツジなどが植樹され、代々守られてきました。毎年4月29日には山頂の愛宕神社で祭典が行われます。

※地図はP3のYORII HANA MAPに、掲載しています。

春を迎えると、さまざまなイベントが開催されます。寄居町のイベントといえば、「寄居玉淀水天宮祭」が代表的ですが、山一面が真っ赤に染まる「金尾山つつじまつり」や戦国時代の攻防戦を再現した「寄居北條まつり」も魅力的な祭りです。寄居町の春にピッタリなイベントに、訪れてみてはいかがでしょうか。



麓の駐車場から階段を上っていきます。ほどなく左右に真っ赤に染まるヤマツツジが見えてきます。見晴らしの良い約2.7ヘクタールの山肌にツツジが自生し、周囲の景色を楽しみながら山頂を目指します。



人の背丈よりもはるかに大きなヤマツツジ。古いものでは樹齢200年を超えるとも。手入れがされた愛宕神社への参道沿いに真っ赤な花が咲き乱れます。ツツジに囲まれた道中はまるで真紅の世界に入り込んだような体験を味わえます。



山頂付近には、見晴台も整備され、付近の景観が一望できます。金尾山では、1959年(昭和34年)全国植樹祭が開催され、その後2013年(平成25年)に全国育樹祭が行われた際に、皇太子さま(現在の天皇陛下)がヒノキをお手入れされました。

今年は4月12日から5月5日まで開催(見頃は4月20日～下旬)  
問い合わせ 寄居町観光協会 048-581-3012、寄居町商工観光課 048-581-2121

武者に扮した約500人の行列が練り歩き、沿道は多くの観客で賑わいます。手作りの甲冑を身に纏った武者は見ごたえがあり、思わず見入ってしまいます。(コースは毎年変わります)。



玉淀河原で練り上げられる一騎打ち。北条軍と豊臣軍の勝負を決する祭りのクライマックスです。勝鬨を宣言する大将の掛け声に会場全体が盛り上がります。迫力のある攻防戦を会場で味わってみてはいかがでしょうか。



お祭り当日は、飲食店ブースとイベントブースが集まる「北條食の陣」エリアも賑わいます。町のグルメの出店や戦国時代にちなんだイベントが開催されるなど、寄居町の魅力を堪能できるエリアです。どなたでも楽しめるエリアですので、ぜひお立ち寄りください。



例年5月中下旬開催  
問い合わせ 寄居町北條まつり実行委員会  
寄居町商工観光課048-581-2121、寄居町観光協会048-581-3012

## 寄居北條まつり

戦国時代の合戦を再現した時代祭り



町を代表するお祭りのひとつ、「寄居北條まつり」。戦国時代の鉢形城攻防戦を再現したお祭りで、玉淀河原を舞台に開催されます。寄居北條まつりは、1590年(天正18年)、鉢形城を居城とした北条氏邦率いる北条軍約3,500人が、前田利家と上杉景勝が率いる豊臣軍約50,000人を相手に1か月に渡って練り上げた合戦を再現したお祭りです。武者がパレードし、玉淀河原で両軍に分かれ、合戦を再現する光景は、見ごたえがあります。砲弾の音が響く中での攻防戦は迫力満点です。地元住民から親しまれているだけでなく、県外のファンも多く、当日はたくさんの来場者で賑わいます。





# 寄居を食す。vol.3

「寄居町ならではの」の魅力が詰まった「食」を紹介します。町のお店の魅力を知っていただき、まちなかを楽しむための参考になればと思います。これをきっかけに町を訪れていただき、散策と食べ歩きを楽しんでみてはいかがでしょうか。みなさんの来町をお待ちしています。

## 1 お米café さかもと

OKOMECAFE SAKAMOTO

地元可愛され、お客様と繋がる「心もお腹もまんぷくに」なれるお店です。

寄居駅北口から北西に徒歩5分、白い外壁に稲穂のデザインが印象的なお店「お米café さかもと」に到着します。和食のプロであるご主人と、洋風でゆっくりとコーヒーが飲めるお店にしたいという奥様の思いから、ご飯に合う料理とカフェを組み合わせ、「心もお腹もまんぷくに」をコンセプト



トに「お米café さかもと」が2019年にオープンしました。ご主人のおすすめは、



メインの料理を9種類の中から選ぶことができます。いずれも地元の厳選された食材にこだわった料理に目移りしながらも、今回はポークステーキをいただきました。柔らかいお肉に甘辛いタレがマッチする至福の逸品は、まさに「心もお腹もまんぷくに」。別腹のデザートには、寄居の特産品であるみかんを使った戦国寄居蜜柑シャーベットをいただきました。口の中に甘酸っぱい寄居のみかんの風味が広がり、寄居のみかんをそのまま頬張ったようなご褒美デザートです。



ご主人は「お店が開店して4年。地域の

人たちに支えられてここまで来ることができました。今後は地元で恩返ししていきたいです」と優しく話してくれました。「お米café さかもと」で心もお腹もまんぷくに満たされてはいかがでしょうか。

寄居町寄居1169-1  
☎ 048-514-7788  
🕒 火曜～土曜 11:00～14:00  
17:00～22:00  
🗓 日曜、月曜（予約次第で営業）

## 2 喫茶ベアー

KISSA BEAR

クマの看板が目印の喫茶店。ウェルカムなオーナーが迎えてくれます。

寄居駅南口から南西に徒歩10分、かわいいクマの看板「喫茶ベアー」が目に入ります。店内にはかわいらしいクマのぬいぐるみが飾られ、気さくなオーナーが迎えてくれます。今回はホットサンドセットをいただきました。ホットサンドは外がカリッと、中はふわとしたパンに、半熟の卵、コクのあるチーズが合わさり、クリーミーでリッチな味わいに。つついおかわりをしたくなるほどのおいしさです。コーヒーはオーナーおすすめのベアーブレンドを注文しました。優しく爽やかな口当たりから、しっかりしたコクを感じます。お客さんが好きな味を研究し、オーナーがこだわりぬいた独自のブレンドは、まさに至福の一杯です。誰にでも優しく話しかけてくれるオーナーとおしゃべりをしていると、時間を



忘れ、つい長居をしてしまいます。ゆっくりできる喫茶ベアーでは、オーナーを通して人と人が繋がっていく場所でもあるため、常連さん同士が仲良くなったり、一人で入店しても話し相手に出会えたりする、みんなの居場所です。お店から感じる優しい雰囲気、近くを散歩している方や子ども連れの方、若い方など多くの方が訪れ、店内でおしゃべりを楽しまます。ティータイムには季節に合う焼き菓子やケーキ、パフェなどもいただくことができます。



「喫茶ベアー」で楽しいひと時を過ごしてみたいですか。

「喫茶ベアー」で楽しいひと時を過ごしてみたいですか。

「喫茶ベアー」で楽しいひと時を過ごしてみたいですか。

寄居町寄居267-7  
☎ 090-2165-1302  
🕒 火曜～土曜 11:00～17:00  
🗓 日曜、月曜、不定休  
Instagram: @kissabear3911で営業日を確認できます。

## 3 ほっぺ

HOPPE

ボリューム満点手作り料理で家族のように温かく迎えてくれるお店です。

寄居駅北口から5分ほど歩くと定食ののぼりが目印の「ほっぺ」に着きます。店名の由来は「ほっぺが落ちるほどおいしい」から。ママおススメのほっぺ定食はメインのいかフライに新鮮な刺身、日替わりの小鉢にお味噌汁など、彩り豊かでどれも食欲をそそるものばかりです。更にコーヒーか紅茶が選べるドリンクサービスが付き、ボリューム満点で、リーズナブルなお値段です。



10年前に開業したほっぺは、近所の方や公民館サークルの人たちの口コミで知れ渡り、サービス精神旺盛なお店はお客さんの憩いの場として親しまれています。夜になると、定食の他にも一品料理を注文することができ、お酒とともに豊富なメニューをおつまみとして楽しむお客様で店内がより賑わいます。ご家族で経営されているほっぺは、家庭的で温かみのあるお店です。店内に入ると、家族のように優しく包み込んでくれる「ほっぺ」で心もあたたまるおいしい食事をしてみてはいかがでしょうか。

寄居町寄居1319-15  
☎ 048-580-0005  
🕒 火曜～日曜 11:30～14:30  
17:00～22:00  
お客様がいる間は営業します。  
🗓 月曜、第3日曜





# ヨリイノヒトビト。

## まちで活動する寄居人を紹介

まちづくりにはさまざまな手法があり、寄居町では多くの方がまちづくりに参画しています。住人が主体となるまちづくりは、それぞれの得意分野からアプローチが可能です。今回、寄居町を盛り上げようと活動されている方を紹介します。

ヒップホップグループ

アワザルカス  
**AWAZARUKAS**

### PROFILE

ヒップホップグループ、寄居町生まれ。2014年に結成してから寄居町のことやさまざまなテーマをラップして音楽活動を行う。自分たちで作詞・作曲を行い、楽曲配信やライブを通してメッセージを発信。

Twitter:@awazarukas048  
YouTube:  
<https://youtube.com/@AWAZARUKAS048>



Instagram:@awazarukas048



左からDSKさん、D.E.Vさん、Takutさん

「俺ら寄居町のラッパー 俺ら寄居町で会った」。癖になるメロディーと口ずさみたくなるラップを歌っているのは、寄居町で結成されたヒップホップグループ「AWAZARUKAS」。AWAZARUKASの名前の由来はメンバーが寄居町の桜沢地区に住んでいて、桜沢(SAKURAZAWA)を逆から読むとカッコいい響きだったからとのこと。メンバーはリーダーのTakutさん、DSKさん、D.E.Vさんの3人。3人の出会いは町の産業文化祭でフリーマーケットに出店していたTakutさんが、以前からライブに出演するなど音楽活動を行っていたDSKさんに声をかけたことから始まり、そこにD.E.Vさんが加入して2014年に「AWAZARUKAS」が結成されました。

「AWAZARUKASは町のことや自分たちが楽しいと思うことをラップしているグループです」とTakutさんは話します。彼らは地元である寄居町のことや伝えたいことを歌詞にして、イベントで曲を披露したり、SNSで配信したりして、精力的に活動しています。「1曲完成するのに、最短5分でできるときもあれば、半年かかるときもあります。3人で盛り上げて楽しんでいけば必然的にいい曲ができます」とD.E.Vさんは笑顔で話してくれました。



ライブに出演しているAWAZARUKASさん

「来年で結成10年になります。その過程で解散の危機とか(笑)、たくさんを乗り越えてきました。AWAZARUKASは3人の遊び心の現象です。ストイックなTakutと大事なところをバシッと決めるD.E.Vのおかげでここまで続けることができました」とDSKさんは照れながら語ってくれました。取材の中で、仲良さそうに笑い合う様子からは、3人の強い絆を感じました。楽しみながら活動するというモットー、高い音楽技術、そして、3人の強固な関係が彼らの音楽の原点となり、心に響く曲を生み出します。

今後の目標についてリーダーのTakutさんは「海外のフェスに出演すること、寄居町でフェスを開催することです。新型コロナウイルスの影響で自分たちの曲を披露できる場所が少なくなりましたが、新しくできた駅前施設などでもライブができるなら町のためにもやってみたいです」と力強く語ってくれました。寄居町を題材にラップで盛り上げようとさまざまな場所で活躍するAWAZARUKASさんから目が離せません。

寄居オーガニックカウンシル代表

## 柴崎 広美さん

SHIBASAKI HIROMI

### PROFILE

寄居オーガニックカウンシル代表。寄居町生まれ、町内在住。「食」を通して、オーガニックな暮らしを広めたいと、「寄居オーガニックカウンシル」を立ち上げ、さまざまな活動を通して自然と人に優しい暮らしをPR。



寄居オーガニックカウンシルHP



「寄居町にオーガニックな暮らしに興味のある人が集まり、それが町のひとつの魅力となれば」と話す柴崎さん。2019年に「寄居オーガニックカウンシル」を立ち上げ、町内の農家さんとともに、オーガニックな暮らしを楽しむ仲間づくりをしています。「オーガニックな暮らし」とは、自然と人の調和を大切にしたい暮らしのことで、生活の糧となる「食」に注目し、化学肥料や農薬を使わず、有機肥料での野菜づくりを通じて、その魅力と野菜づくりの楽しさを多くの人に知ってほしいと活動しています。地元の有機農家さんと協力し、農業体験や家庭菜園講座の開催、農産物の販売、活動の拠点となる古民家の再生などを行っています。「食」を通じて自然の循環の大切さに共感する多くの方々の協力もあり、大正6年築の古民家が、当時の面影と里山の景観が調和し、暖かさや懐かしさを感じられる場所となっています。この古民家では、今年夏ごろを目途に、野菜等の農産物を持ち寄るマルシェなどを開催し、有機野菜や手づくりの品を分け合うような場所になればと考えているとのこと。こういった活動を行い、それらをSNS等で発信して参加してくれる仲間を増やしています。



大切に育てられているニンニク

一方でオーガニック野菜というイメージが先行しがちで、敬遠されやすい点や生産量が安定しないという点が課題となっているそうです。「安心して食べられる」というイメージはあるものの、それを見直すきっかけがないことがひとつの障壁になっているため、こういった活動がそのきっかけとなり、「身近にある顔の見える野菜を知っていただき、徐々に共感してくれる人を増やしていきたい」と話してくれました。また、農業の担い手が不足していることも課題のひとつです。手入れが行き届かなくなった土地は荒廃し、太陽光パネルが設置されている農地も増えています。そういった現在耕作されていない土地を活用して、小規模な家庭菜園からでも生活の一部に農業を取り入れてもらい、その楽しさ、魅力を体感して欲しいという思いで活動しています。

環境に優しい野菜づくりを通して、仲間を増やしていきたい、楽しみながら自然と人の環境を豊かにする活動を寄居町から広めていきたいと話してくれた柴崎さんの活躍に今後も注目です。





男衾自然公園の北側にある鳥居付近にも来園者を出迎えるように桜が咲いています。多くの方がこちらの鳥居付近から登っていきます。



約1,500本の桜が咲く園内は、手入れが行き届いています。ピンク色に染まった景色をお楽しみください。



公園の麓から登ると、見晴らしがよい頂上に到着します。頂上からパノラマが楽しめ、近隣の山々や寄居町のまちなみを見ることができます。



男衾桜は春と秋の二季咲きなので、秋にも桜を楽しむことができます。淡紅色で、大輪咲の美しい品種です。

さくら祭り

日時 3月25日(土)、26日(日)、4月1日(土)、2日(日)  
午前10時から  
問い合わせ 男衾自然公園管理組合代表 福島さん  
090-3903-2022

編集後記

まちなか情報紙『あっLOOK』第3号は、寄居町を代表する春の見どころを中心に紹介させていただきました。町内には各地で桜が咲き、春を満喫できるスポットが多くあります。本紙で紹介しきれないほど寄居町には春の見どころが詰まっています。本紙をきっかけに寄居町を知っていただき、寄居町を歩いてもらうことで町の魅力を体験していただければ幸いです。

まちなかをピンク色に彩る桜は、以前から自生していたわけではなく、地域の方が協力し合い、活動を継続することで、美しい景色を楽しむことができるようになっています。このような取り組みを見習い、まちづくり事業を推進してまいります。

発行にあたり、紙面に登場していただいた方をはじめ、たくさんの方に協力いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



# 男衾自然公園

里山から桜の名所へ 男衾桜の里

春になると一面が桜に覆われる男衾自然公園は、地元の桜の名所として知られ、地域に愛されている公園です。この場所は、さまざまな理由により手入れが行き届かず、荒廃が進んでいました。そこで「男衾かたくりの会」がこの里山を地域の名所にしようと、2009年(平成21年)ごろから整備を始め、遊歩道の整備や桜の植樹を行い、2011年(平成23年)に男衾自然公園として開園しました。多くの団体や地域の方の協力を得て、現在では約1,500本の桜が咲く名所として、毎年多くの方が見事な景色を楽しみに訪れます。なかでもアーコレードという樹種を「男衾桜」と名づけ、現在では、約1,000本の男衾桜が植樹され、男衾桜の里として、知られるまになりました。

男衾自然公園は四季を通して山野草が楽しめる里山公園でもあります。春にはカタクリや水仙、夏には萩やキツネノカミソリが山中を染め、晩秋には紅葉と冬桜も見ることができます。標高171mの頂上からは西から草津白根山、赤城山、東には筑波山など、北関東にある日本百名山の山々を一望することができます。また、麓に目を移すと、東武東上線の列車を見ることができます。周囲の景色を楽しみながら体力づくりやハイキング・散歩を楽しめるスポットとして、人気があるのも頷けます。また、園内には俳句の句碑が並んでいることも、注目していただきたいポイントです。花が咲かない時期でも散歩を楽しんでもらえるようにと、地元の小学生や団体が設置したもので、句碑を見ながら園内をまわると、一層楽しくなります。また、地元の中学生のタイムカプセルが埋められているなど、地域の中に、溶け込んでいる場所です。

荒廃した場所が地域の方をはじめとした多くの方の手によって、かけがえのない公園に生まれ変わったことは、地域の力により一つの懸案事項を解決し、今後のまちづくりのあり方の手本となる事例です。そんな地域に愛されている男衾自然公園を桜の季節に、足を運んでみてはいかがでしょうか。

